

## 【助け主: helper】

「助け主」という言葉はヨハネの福音書にだけ6回出てきます。原語では5回で、一回はⅠヨハネの手紙2章1節に出てきます。『私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。』【My little children, these things I write to you, so that you may not sin. And if anyone sins, we have an Advocate with the Father, Jesus Christ the righteous.】しかし、ここでは、「とりなす者」、英語では「擁護する者」と訳されています。ヨハネの福音書では「助け主」と訳されています。聖書で最初に出てくる「助け手」は、創世記2章18節『また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。』【And the Lord God said, “It is not good that man should be alone; I will make him a helper comparable to him.”】神が人を創造されたときに、人の「助け手」として「女」が創造されました。ジェンダーギャップとかよく言われますが、性によって差別がないことは、聖書的です。しかし、ジェンダーレスの性の区別がないことは、聖書的ではありません。男と女の役割が違うのは、神はそうに創造されたからです。そして、男にできないことを助けるために、神は女を創造されました。こういう風に書くと、男が主で、女が従であるかのように聞こえます。

しかし、新約聖書では違った風に書かれています。エペソ5章24～25・28～32『24 教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。29 いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。30 私たちはキリストのからだの部分だからです。31「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。』【24 Therefore, just as the church is subject to Christ, so let the wives be to their own husbands in everything. 25 Husbands, love your wives, just as Christ also loved the church and gave Himself for her, 28 So husbands ought to love their own wives as their own bodies; he who loves his wife loves himself. 29 For no one ever hated his own flesh, but nourishes and cherishes it, just as the Lord does the church. 30 For we are members of His body, [h]of His flesh and of His bones. 31 “For this reason a man shall leave his father and mother and be joined to his wife, and the two shall become one flesh.” 32 This is a great mystery, but I speak concerning Christ and the church.】男と女の関係は、キリストと教会の関係と同じだと書かれています。決して離れるものではなく、愛によって結ばれているものです。だから、離婚することは聖書的ではありません。

助け手について書きましたが、助け主については、ヨハネ14章26節・15章26節『14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。』【14:26 “But the Helper, the Holy Spirit, whom the Father will send in My name, He will teach you all things, and bring to your remembrance all things that I said to you. 15:26 “But when the Helper comes, whom I shall send to you from the Father, the Spirit of truth who proceeds from the Father, He will testify of Me.】助け主は御霊であると書かれています。困っている人を助けることのできる人は、力があって、解決できる人、そして何よりも信頼できる人でなければなりません。御霊は神の元から遣わされます。使徒の働き2章2～4節『2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。』【2 And suddenly there came a sound from heaven, as of a rushing mighty wind, and it filled the whole house where they were sitting. 3 Then there appeared to them [b]divided tongues, as of fire, and one sat upon each of them. 4 And they were all filled with the Holy Spirit and began to speak with other tongues, as the Spirit gave them utterance.】御霊は信仰者にだけ与えられます。